

米田知子 残響—打ち寄せる波

Tomoko YONEDA *Echoes—Crashing wave*

4 June – 9 July, 2022



1



## 《畑—ソンムの戦いの最前線であった場所/フランス》2002

ソンムの戦いは、第一次世界大戦の最大の戦いと言われ、300万人が戦い、100万人の死傷者を出したと言われている。この叙情的なフランス北部旧西部線の田園地帯には、いまだに不発弾薬が残されている。「鉄の収穫」と呼ばれるように、毎年数百トンもの不発弾薬が発見され解体されるが、その工程において数百人もの兵器撤収労働者が亡くなっている。

2



## 《絡まった有刺鉄線と花（非武装地帯近く・チョルウォン・韓国）2》2015

朝鮮半島を分断する軍事境界線から、南北計約4キロにわたりDMZと呼ばれる非武装中立地帯が広がる。多数の地雷が埋蔵され、民間人が立ち入ることの出来ない場所である。それゆえに野生動物と植物の独自の生態系が構築され、自然の楽園となっている。

3



## 《絡まる—マルヌ会戦の塹壕跡に立つ木々》2017

第一次世界大戦の勃発とともに、アルジェリア生まれの仏作家アルベール・カミュの父、リュシアン・カミュはズアープ兵（植民地・北アフリカの志願者によって編成されたフランス軍歩兵）としてマルヌ会戦に動員された。しかし、開戦まもなく負傷、頭に受けた傷が致命傷となって死亡した。リュシアンにとって海を渡り初めて踏んだ祖国の地が、彼の死に場所となってしまった。

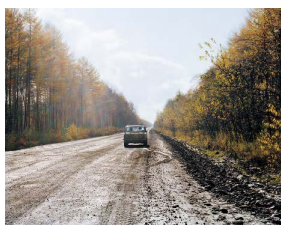
4



## 《窓I、ソビエト国境警備所、ソルベ半島、サーレマー島、エストニア》2004

1939年ソルベ半島はソ連の軍事基地となり、戦中は独ソ両軍の激しい戦闘が繰り返された。この警備所はソビエト国境の警備のために作られ、1992年まで使用された。敷地にあるミサイルのサイロにはソ連の核兵器が格納されていたこともあった。西側諸国に照準を合わせていたとも、スカンジナビア諸国であったとも言われている。

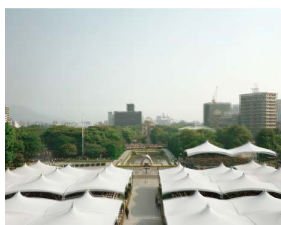
5



## 《北緯50度、旧国境》2012

サハリン島は帝政ロシア領下では辺境流刑植民地となり、流刑囚によって開拓された。日露戦争後から第二次大戦日本降伏時まで、サハリン島の北緯50度以南は日本の統治下にあり、樺太と呼ばれていた。1937年、この国境にて女優・岡田嘉子と演出家・杉本良吉が徒歩でソ連に越境した。すぐさまスパイ容疑をかけられ投獄され、杉本は処刑された。大粛清が吹き荒れていたソ連の状況を二人は把握していなかった。

6



## 《70年目の8月6日・広島》2015

毎年8月6日、午前8:15に広島平和記念式典では鐘の音と共に犠牲者への冥福と平和を祈り黙祷が捧げられる。2015年、安保法改正が審議されている最中、安倍元総理大臣が式辞を述べると野次が沸き起こった。戦後70年、第一次世界大戦勃発から100年を合わせた大きな式典が行われたこの日、平和への渴望が一層高まっていた。

7



## 《地雷原—地雷が埋められたサッカー場、サラエボ》2004

ユーゴスラビア社会主義連邦共和国は、さまざまな文化や宗教を持つ多民族の自治権を尊重し、共存の道を行ってきたが、英雄的存在であったチトー大統領の死後、民族間の緊張が高まっていた。1992年、ボスニア・ヘルツェゴビナで紛争が本格化し、首都サラエボでは多くの市民が狙撃兵の犠牲となった。政治体勢が変わるごとに引かれる境界線、共存の困難さ、主民族の優位、その度に犠牲になっていく人々と子供達が存在する。

8



《丘陵—「モスキート・クレスト」の頂をのぞむ、ブルネテの戦い、スペイン》2019

1936年にスペインで発生した共和国政府軍人民戦線とフランコ率いる反乱軍との内戦は、ファシズム対共産主義の代理戦争とも言われ、第二次世界大戦への前兆となった。ファシズム化する世界に反対した義勇兵にはジョージ・オーウェルなどの作家や芸術家も含み、さまざまな国際旅団が作られた。ブルネテの戦いでは、ジャック白井という日本人コックがアメリカのリンカーン旅団に参加し、亡くなった。リンカーン旅団指揮官の一人オリバーローは、アフリカ系アメリカ人最初の指揮官であった。モスキート・クレストは、銃弾の行き交う音が蚊の飛来音のように凄まじかったためそう呼ばれた。

9



《線路—満州事変勃発となる関東軍が爆破を仕掛けた線路を臨む、瀋陽》2007

線路近郊から煙が立ち上る瀋陽は、日本の統治下では総督府が置かれ奉天と呼ばれていた。1931年、柳条湖の南満州鉄道路線で関東軍が仕掛けた爆発が起こる。これが中国東北部への侵攻の足がかりとなった。

10



《空き地—テロ攻撃で破壊されたアメリカ大使館があった場所、ベイルート》2004

1983年、ベイルートにあるアメリカ大使館がテロ行為により爆破され多くの職員が犠牲となった。レバノン内戦に介入しはじめた米国へのヒズボラによる攻撃とされている。イスラエル、パレスチナとの関係、パレスチナ解放機構を後ろ盾とする中近東、アメリカが支援するイスラエルとの緊張は今も解けることがない。

11



《桜—靖国神社、東京》2006

靖国神社に献木されている桜には、先の戦争で戦った師団の名前が札に書かれている。深く、散りゆく桜の裸枝に、讃歌なく、若くし命を落とすこととなった兵士たちの姿が重なる。

12



《ビーチ—ノルマンディ上陸作戦の海岸／オマハビーチ・フランス》2002

ナチスドイツ占領下のフランスへ潜入するため、ノルマンディ海岸には5つの上陸地点が計画された。1944年、コードネームオマハとされた海岸はアメリカ陸軍の上陸場所となった。

13



《地雷原—地雷が埋まっている休憩所/非武装地帯・坡州・韓国》2004

1978年、韓国の坡州にあるDMZ非武装地帯で北朝鮮が韓国に侵入するために掘ったトンネルが発見された。現在では観光地になっており、トンネルの中をトロッコで移動することもできる。何気ない休憩所でくつろぐ観光客の背後には、ただし地雷注意のサインが掲げられている。

14



《丘—連合軍の空襲で破壊されたベルリンの瓦礫でできた丘》2000

遠くにル・コルビュジエの集合住宅ユニテ・ダビタシオンを臨み、工場の煙突からでる煙で燻ったベルリンの風景が見えるこの丘は、第二次世界対戦で破壊された街のあちこちから集められた瓦礫でできている。そして土の下には犠牲となった無辜の人々の思い出も詰まっている。

15



《森—ソンムの戦いがあった森/デルビルの森・フランス》2002

1916年、デルビルの森で英国歩兵師団と海外遠征軍がドイツ軍と戦った。英国シュルレアリスム派の画家ポール・ナッシュは義勇団に入隊し負傷するが、再び戦争画家として従軍した。彼の作品『我々は新しい世界を創造している』（1918）に描かれたように、木々は焼き払われ、薙ぎ倒された。戦後100年以上経ったいま、新緑が生茂る。しかしこの森には今でも多量の不発弾が眠っている。